

# 令和4年度 第2回東御市総合教育会議 会議録

---

## 1 日時

---

令和5年(2023年)2月22日(水) 午前10時30分から午前12時00分まで

## 2 場所

---

公室

## 3 議題

---

(1)令和5年度教育支援構想について

## 4 出席者

---

○市長 花岡利夫

○教育長 小山隆文

### ○委員

教育長職務代理者 下村征子

委員 小林経明

委員 直井良一

委員 五十嵐英美

### ○その他

柳澤教育次長、清水教育課長、樋沢生涯学習課長

安川学校教育係長、重田青少年教育係長

土屋学校教育係主査

## 会議録

---

柳澤教育次長

ただ今から令和4年度第2回東御市総合教育会議を開催します。  
はじめに市長、教育長からごあいさつをお願いします。

花岡市長

おはようございます。ご多用の中、お越しくださりありがとうございます。

本日は総合教育会議ですが、現在は3月議会も開催中ということで、新年度は脱炭素、DX、子育て・子育て支援に重点をおきながら実施していく方向ということで説明させていただいております。

子育て・子育て支援の教育にも繋がる部分としては、令和5年度は滋野児童館が学校のそばに移設予定となっております。また、田中児童館のそばに計画しています発達障がいの子どもたちのためのトレーニング施設につきましては、現在子どもサポートセンターに来ている子どもたちの中には、トレーニングを必要とする子どもたちもおりますが、その子どもたちにあつたトレーニングに取り組むことで、改善が図られるのではないかと考えております。

また、2月18日に行われた、とうみボッチャ2023では金藤さんや加藤さんにもご参加いただきドリムチームとして交流させていただきました。大勢の方にご参加いただき、ボッチャのまちづくりが進められていると感じました。なお、総合福祉センターの改修を現在進めておりますが、その2階の会議室をボッチャのコートとしても使用できるように考えております。健康のためにも是非盛り上げていけたらと思いますので、よろしく願いいたします。

最後に、教育委員の増員については令和6年度から出来ればと考えておりますので、今後ともどうぞよろしく願いいたします。

小山教育長

教育委員の皆様方には、先程の定例教育委員会に続きましてご参加を頂いておりますが宜しくお願い致します。

また、花岡市長におかれましては、ご多用の中、ご出席を頂きまして誠に有り難うございます。

さて、本日は、本年度の反省と次年度になります令和5年度に向けた教育委員会の取組に対しまして、様々な角度からご意見やご要望を賜り、課題解決や子ども達の姿で成果が語れるように取り組んで参りたいと考えておりますので宜しくお願い致します。

今、「子どもサポートセンター」に代表されますように、本市の大きな課題は不登校生を出さないための取組であり、不登校生自身の「学びの自立」をどのように促し、支えて行くかであります。仮に10人の不登校生がおりますと、十人十色の要因となる背景を抱えております。支援者であります私どもは、同じような背景でも一人一人の背景が全く異なっているということをまず自覚し、その不登校生一人一人の思いを受け止め、一人一人の背景に寄り添いながら支援を重ねて行く必要

があります。

とはいうものの、当事者である不登校生や保護者の方との関係を作るだけでも時間が掛かります。継続して係わる皆さんのエネルギーも必要になるかと思えます。私どもも、専門家集団である「子どもサポートセンター」の皆さんや先生方と一緒に、ワンチームになって粘り強い支援を積み重ねて参りたいと考えております。なお、先生方にも、国語、算数、理科、社会等の教科学習や時々行事といったこれまでの学びのスタイルに少しでも変化が生まれ、仲間と共に学ぶ学校の素晴らしさが高まることを目指して様々な取組をお願いしております。

いずれにしましても、行政側であります「子どもサポートセンター」と、教育現場であります「学校」との連携を図りながら課題に向き合って参りますので宜しくお願い致します。

柳澤教育次長

ありがとうございました。次に議題に入らせていただきます。(1)令和5年度教育支援構想について、小山教育長から説明をお願いします。

小山教育長

説明させていただきます。令和5年度教育支援構想では、コロナ禍の中で家庭が子どもを支え切れていない状況が感じられ、不登校の原因を当事者である子ども以上に保護者が膨らめてしまっているように思われます。本年度「子どもサポートセンター」では、専門家集団として妊娠期や乳幼児期から家庭を中心にした支援に取り組んでいます。1年後にオープンとなる「子ども第三の居場所」も視野に入れ、子育て世代の包括支援を目指しています。東御市教育委員会としましても、これまで以上に「子どもサポートセンター」との情報の共有化を図り、各校との連携の中で不登校生の未然防止に取り組むと共に、新たな不登校生を出さないための具体をもって学校や先生方を支えていきたいと考えております。そのためにも、本年度取り組んだ「学校の魅力」を再構築し、ひと(先生方や友達の魅力)、もの(施設や教材の魅力)、こと(授業や行事の魅力)を軸に、子ども達に、学校に行ってみたい、友達と一緒に学んでみたいと思ってもらえるような学びの場や関わり空間を先生方と一緒に考えて参りたいと思っております。学校にはこれまで以上に「基礎学力の定着」や「学びの楽しさが感得できる学校」に向け、「誰もが分かる授業」や「開かれた学級」作りに取り組んで頂きたいと思えます。

また、10年目に入ります小中一貫教育や6年目に入ります小中一貫型教育につきましては、ICT教育支援員等に小中連携を視野に入れながらも小中相互に指導を頂くことで、小中一貫、小中一貫型と連動させながら「ICT教育」を推進して参ります。なお、小中一貫(型)教育推進委員会における推進・検討事項は、令和5年度から導入するコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)で引き継ぐこととなっております。

いずれにしましても、校長先生のリーダーシップや校長会を中心に、9年間を見通しながら東御市学校職員会を機能させて頂き、課題解決にお力添えを頂きたいと思えます。

次年度に取り組む三つの柱としまして、(1)不登校の未然防止、(2)基礎学力の定着、(3)ICT教育の推進をしてまいります。まず、(1)不登校の未然防止としましては、各校が子どもサポート

センターとの連携を図りながら更なる活用を推進し、子どもサポートセンターの取組の具体を通して先生方や学校の配慮生への意識改革に繋げていきたいと考えております。次に(2)基礎学力の定着としましては、内容や取り組み方を指導することで達成感や成就感に繋げ、子ども達の負担にならないように確かな学びに繋げる宿題も検討してまいりたいと考えております。そして(3)ICT教育の推進としましては、ICT教育支援員を活用して本年度以上の推進をし、学年会や連学年会、教科会等で実践に結び付く校内研修を、教頭先生を中心に計画的に取り入れていただきたいと考えております。また、子どもたちにはiPadの様々な活用で学習活動の広がりや学習効果を実感できるように、各校の取組を学び合いながら市全体のレベルアップを図り、更に先生方の諸会合や諸連絡にも活用頂き、市内7校のスムーズな連携に繋げていきたいと考えます。

また、学校の魅力アップのための具体としましては、(1)ゆるスポ、(2)朝鑑賞、(3)防災教育、(4)認知症サポーターの育成を重点に、13点の項目をあげさせていただきました。その中でも、(1)ゆるスポにつきましては北御牧中学校と新たに東部中学校でも実施を考えており、また、小学校ではげんき塾を継続して行い、学校職員と児童館や児童クラブとの積極的且つ定期的な連携を図ってまいります。(2)朝鑑賞につきましては、小中7校の先生方にオンライン研修を実施予定です。また、文化係や丸山晚霞記念館、梅野記念絵画館、和小学校の宮下校長先生にご協力いただき、実際に絵画も活用しながら朝鑑賞を推進してまいります。(3)防災教育につきましては、東御消防署と連携した小学校の「子ども防災マップ作り」や、中学校のAEDによる「救命救急講習」等を通じて、防災・減災・救命といった観点からの「ふるさと学習」にも繋げてまいります。(4)認知症サポーターの育成としましては、児童生徒が支援される側から支援する側に立つことで、社会的自立心を育むことに繋がっていきますので、学年を決めて積極的に取り組んでまいります。

#### 柳澤教育次長

ありがとうございます。ご意見などございましたら、よろしく申し上げます。

#### 下村委員

朝鑑賞につきましては、和小学校の宮下校長先生が関わっていただけるというのがとても有り難いです。また、児童館の会議に出席させていただきましたら、児童館の職員の方々が学校の先生と話し合いをする機会が出来て非常に良かったと仰っておりました。児童館の先生にとっては学校は少し敷居が高く、定期的な連携をとれるということはとても大事だと感じました。

#### 小山教育長

宮下校長先生は今年度も全学級対話型の鑑賞を行っていただくなど積極的に動いてくださっており、朝鑑賞についてもとても有り難く感じております。

#### 直井委員

滋野小学校の玄関にとっても立派な絵画が飾ってあります。ほかの学校にも本物だったりレプリ

力だったり様々な絵画がありますので、そういった既存のものも活用していいと思うのですが、いかがでしょうか。

下村委員

貴重な絵画で管理等が大変な中ですが、子どもたちにも見やすい場所に飾ってありますし活用できればいいと思います。ただ子どもたちもそれを毎日見ていると段々と意識しなくなっているような気がします。

小林委員

ずっと飾っておいたままだと、大切さの意識が薄れていくかもしれません。今一度、子どもたちに意識して見てもらう機会を作るのもいいと思います。

小山教育長

まずは自分たちの学校の絵画を、クラス単位などで実際に飾ってある場所まで行って実物を見ながら対話することで、作品の素晴らしさを出し合ったりしながらじっくり見られれば、子どもたちも改めて意識するかもしれません。

直井委員

他の学校のものも鑑賞できれば新たな発見があったり、今あるものを大切にしたりできるかもしれません。

花岡市長

朝鑑賞の大切なところは覚えた記憶ではなく「自分の頭で考える」というところで、作者が何を伝えたいのか、何を思ってこの絵を描いたのか考えることであって、読書とは違った良さとしてあるものだと思っています。また、そうすることで脳を起こして授業中の集中力が増すようになると言われています。

小山教育長

答えがないから良いということもあるのかもしれませんね。

五十嵐委員

小学校では、学期末にタブレットを持ちながら学年を超えてお互いの絵を撮って感想を言い合う機会があったんですが、自信がなくて自分の作品を見られたくない子もいましたので、もっと気軽に褒めたり褒めてもらえるような環境が生まれれば、自分の作品を見てもらうことも抵抗が少なくなったりと、他の効果ももたらしてくれるのではと感じています。

小山教育長

委員の皆様からいただいたご意見も踏まえて来年度の重点事項として実施していきたいと思  
います。

柳澤教育次長

ありがとうございます。他に朝鑑賞以外にもご意見などございますでしょうか。

花岡市長

東部中学校の授業の一環で市長への質問を YouTube で答えさせていただきましたが、それ  
に対する子どもたちの感想をいただきまして、東御市の市政について色々なことを感じていただ  
いたようです。生徒たちにどう感じてもらえたか、どんな考えを持っているのか知ることができ  
良かったです。以前、とある大学の講義でも市長の仕事をお話する機会がありましたが、それ  
も好意的で東御市に来てみたいと言っていたことがございます。他にも台湾からの地方創生を  
学ぶ研修旅行で、旅行会社から東御市を選んでいただいたこともございました。

小林委員

子どもたちがどういった感想を抱き、どういった考えを持ったのか、教育委員でも共有  
させていただきたいと思ます。

子育て・子育て支援についてですが、発達障がいの特化した施設はあまり全国でも類を見  
ないと思ますが、将来的にどういったことを目指していますか。

花岡市長

施設としても全国的に少ないと思ます。子どもサポートセンターには特性に関わらず誰  
でも来られるようにしていますが、その子にあったトレーニングを実施することで、その子  
が 100 年生きていくうえでストレスにならずに社会との関わりを持てるようになることが、  
その子の人生にとって大事なことなのではと考えています。発達障がいの子に小さい頃  
からアプローチをかけることで、思ったとおりにならないときにどうしたらいいか、親  
と一緒に考えていけるようにしていきたいと思っております。

柳澤教育次長

ありがとうございました。以上で令和4年度第2回総合教育会議を閉会とさせていただきます。